

営業状況等統計調査

令和5年度財務諸表等より

—令和6年度—

＜解 説 編＞



一般社団法人 **日本旅館協会**
JAPAN RYOKAN & HOTEL ASSOCIATION

令和6年度 営業状況等統計調査

目 次

<解説編>

会員数と回答数旅館ホテルの内訳	2
はじめに	3
報告書の読み方	5
I. 基本調査	
1. 回答旅館ホテルの規模	7
2. 貸借対照表	9
3. 資本効率・借入金償還年数	11
4. 売上構成比	13
5. 原価率	15
6. 経費率	17
7. 利益率	20
8. GOP率	22
9. 定員稼働率・客室稼働率	24
10. 宿泊客1人当り総単価	26
11. 売上効率	29
12. 就業者・就業者効率	31
13. 延床面積効率	34
II. 全件調査	
1. 集客方法	35
2. ホームページ	37
3. インターネット対応	38
4. 外国人宿泊客	39
5. クレジットカード&電子決済	41
むすび	42

会員数と回答旅館ホテルの内訳

会員数（令和6年8月1日現在）

地域（支部連合会）	会 員 数	区 分
北海道	165	北海道
東北	222	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
関東	368	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県
北陸信越	384	新潟県、富山県、石川県、長野県
中部	260	福井県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
関西	311	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中国	128	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
四国	115	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州	214	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
合 計	2,167	



大規模・・・客室数100室以上
 中規模・・・客室数31室以上99室以下
 小規模・・・客室数30室以下

<回答旅館ホテルの内訳>

	有効回答数（棟）	有効回答数（棟）			黒字 施設数 （棟）	黒 字 比 率 （％）	総回答数 （棟）
		大規模	中規模	小規模			
全 体	167	28	76	63	117	70.1	167
大規模	28	28	—	—	20	71.4	32
中規模	76	—	76	—	59	77.6	76
小規模	63	—	—	63	38	60.3	66
北海道	26	10	9	7	18	69.2	23
東北	12	2	4	6	8	66.7	10
関東	14	0	10	4	12	85.7	34
北陸信越	19	1	10	8	14	73.7	23
中部	12	3	6	3	7	58.3	12
関西	31	3	11	17	24	77.4	18
中国	16	3	8	5	8	50.0	14
四国	20	3	10	7	14	70.0	16
九州	17	3	8	6	12	70.6	23
黒字	117	20	59	38	117	100.0	110
赤字	38	5	13	20	—	—	47

（注）損益計算が十分な回答を有効とした。全件調査は有効回答に加え損益計算が不十分な回答も対象としている。

<はじめに>

この調査は全ての協会員に対し、メール(一部 FAX 等)で周知して実施しています。今回は 168 軒の会員旅館から回答が寄せられました。ご協力いただいた会員各位にはこの紙面をお借りして御礼申し上げます。

この調査は令和 6 年 8 月に開始しており、概ね令和 6 年 8 月以前の決算書を基に作成されたものです。従いまして期首が令和 4 年 9 月～5 年 8 月、期末が令和 5 年 8 月～6 年 7 月の決算が反映されています。

令和 4 年夏頃から徐々にコロナ収束による需要の回復がみられましたので、概ねコロナ禍後の回復された決算書が反映されています。ただ、インバウンドが顕著に増加したのは令和 5 年になってからであり、さらに本格的な回復は感染症法の 5 類に移行した令和 5 年 5 月です。よって一部にインバウンドが回復していない時期の決算書に基づく結果となっています。

(1) 対象年度の振り返り

ア) 訪日外国人数：令和 5 年(2023 年)の訪日外国人数は 2,506 万人となりました。前年度の令和 4 年(2022 年・383 万人)比+554.1%、コロナ前の令和元年度(2019 年・3,188 万人)比▲21.3%となっています。出典：日本政府観光局(JNTO)「訪日外国人統計」より

イ) 訪日外国人の国内旅行消費額：令和 5 年(2023 年)の訪日外国人の日本国内での旅行消費額は、5 兆 2,978 億円となりました。前年度の令和 4 年(2022 年・8,987 億円)比+589.5%、コロナ前の令和元年度(2019 年・4 兆 8,135 億円)比+110.1%となっています。

出典：観光庁「訪日外国人消費動向調査」より

ウ) 日本人の国内旅行消費額：令和 5 年(2023 年)の日本人の国内旅行消費額は、21 兆 9,101 億円でした。前年度の令和 4 年(2022 年・17 兆 1,609 億円)比+127.7%、コロナ前の令和元年度(2019 年・21 兆 9,312 億円)比▲0.1%となっています。

出典：観光庁「旅行・観光消費動向調査」より

(2) 今年度調査の回答数、回答率<表 1>

今年度の調査票送信数は 1,902 軒、回答数は 168 軒でした。全体の有効回答数は 167 軒で、送信軒数に占める有効回答率は 8.8%でした。

規模別にみる有効回答数の前年度比・令和元年度比は以下の通りです。

- ・大規模 28 軒(前年度比 0 軒 ± 0% / 令和元年度比 ▲11 軒 ▲28.2%)
- ・中規模 76 軒(前年度比 8 軒 +11.8% / 令和元年度比 ▲29 軒 ▲21.6%)
- ・小規模 63 軒(前年度比 6 軒 +10.5% / 令和元年度比 + 5 軒 + 8.6%)

表1 有効回答全体の推移 (単位:軒)

年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
30 年	162	36	76	50
令和 元 年	194	39	97	58
2 年	153	32	70	51
3 年	179	29	76	74
4 年	153	28	68	57
5 年	167	28	76	63

(3) 黒字・赤字の割合 <図 1、表 2>

経常利益で黒字・赤字を区分しています。全体では 70.1%となり、前年度から 0.8 ポイント増加しました。令和元年度からは 18.6 ポイント増加しています。 コロナ禍が収束し黒字旅館が増加しています。特に大規模旅館での回復が鮮明で、団体のお客様の増加によるものと思われます。

- ・大規模 71.4% (前年度比 +21.4P / 令和元年度比 +17.6P)
- ・中規模 77.6% (前年度比 + 4.1P / 令和元年度比 +26.1P)
- ・小規模 60.3% (前年度比 ▲13.6P / 令和元年度比 +10.3P)

図1 黒字の割合 (単位: %)

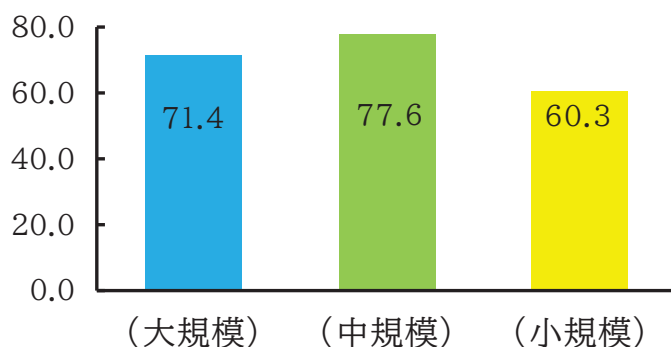


表2 黒字全体の推移 (単位:%)

年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
30 年	64.8	69.4	63.2	64.0
令和 元 年	51.5	53.8	51.5	50.0
2 年	32.0	12.5	25.7	52.9
3 年	43.0	27.6	40.8	51.4
4 年	69.3	50.0	73.5	73.7
5 年	70.1	71.4	77.6	60.3

報告書の読み方

(1) 調査の概要

この調査は「Ⅰ. 基本調査」と「Ⅱ. 全件調査」の2部構成となっています。基本調査は損益計算や客室数、利用人員等の記述が充分な回答（有効回答）に絞って集計しています。一方、全件調査はすべての回答を対象として集計しています。

また規模別集計は客室数を基準としています。

- ・大規模 : 100 室以上
- ・中規模 : 31 室以上 99 室以下
- ・小規模 : 30 室以下

さらに、経常利益を基準に「黒字」「赤字」としています。

(2) 今回の主な変更点

- ・特になし

(3) 解説編の表記方法 <表3>

- ・この調査は調査開始時点での直近の決算書を対象に実施しています。各表の新年度は「令和5年」と表記しています。
- ・前年度との比較：例えば「大規模 20,000 円（▲500 円、▲2.4%）」と表記した場合、20,000 円は今年度の集計結果であり、（ ）内は前年度等との比較を示します。
- ・数値が前年度を上回るときは「+」、下回るときは「▲」を付します。
- ・%同士の引き算（例えば 14.4%－14.7%）の結果を%で表記すると 100 分率との混同がありますので、単位をポイントとし「P」と表記します。
- ・本文中の数値は四捨五入のうえ表記します。
- ・多くの決算書で「経費」や「販売管理費及び一般管理費」等と記される科目は表3の通り当協会の「統一会計基準」による区分としました。

(4) 資料編について

資料編は集計結果のみを掲載しています。留意点は次のとおりです。

- ・調査は任意回答であるために一部に無回答があります。そこで項目ごとに集計対象を見直しています。
- ・全体平均、規模別、地域別、黒字・赤字別に集計していますが、その場合も以下のようにその都度計算する対象を見直しています。

原価率＝原価額÷売上額

黒字の原価率＝黒字施設全体の原価÷黒字施設全体の売上

赤字の原価率＝赤字施設全体の原価÷赤字施設全体の売上

- ・回答された調査票のうち売上等内訳を記載しないまとめ書きについては按分しています。
- ・さらに、異常値といえる過大あるいは過少の数値については、その項目を不明としています。
- ・また地域別・規模別において回答が1軒以下の場合は、算出された数値はblankとしています。従いまして関東の大規模の地域別の回答は表示しません。なお、全体の大規模の平均には含まれます。

表3 経費区分

人 件 費	役員報酬、給料、退職金、法定福利費、厚生費、 外注・委託費、求人費、教育研修費、賞与
営 業 費	販売促進費、営業所費、営業交通費、接待交際費、 広告宣伝費、販売手数料
業 務 費	サービス費(リネン、客室消耗品費、アメニティ)、 備品消耗品費(食器、厨房用品、装飾費)、修繕費、 保守修繕費、衛生費、車両費、水道光熱費、通信運搬費
管 理 費	リース料、会費・組合費、地代・家賃、顧問料・調査費、 保険料、租税公課、事務用消耗品費、雑費
減価償却費	建物、構築物、機械等の減価償却費

I. 基本調査

基本調査は全体の経営状況を分析します。

1. 回答旅館ホテルの規模 <表 4、表 5>

(1) 総客室数・収容定員

全体で1軒当たり客室数は64室、収容定員236名となっています。規模別では、

・大規模	181 室	(前年度比	+9 室	+5.4%	/	令和元年度比	+8 室	+4.8%)
・中規模	59 室	(前年度比	+1 室	+2.3%	/	令和元年度比	▲2 室	▲2.8%)
・小規模	18 室	(前年度比	▲1 室	▲2.8%	/	令和元年度比	±0 室	+2.6%)

収容定員は、

・大規模	630 人	(前年度比	▲29 人	▲4.3%	/	令和元年度比	▲29 人	▲4.3%)
・中規模	230 人	(前年度比	+15 人	+6.8%	/	令和元年度比	▲27 人	▲10.7%)
・小規模	68 人	(前年度比	▲10 人	▲12.7%	/	令和元年度比	▲12 人	▲14.9%)

(2) 1室当り収容定員

1室当り収容定員＝収容定員÷総客室数

全体で1室当り定員は3.7人と前年度から▲0.1人でした。個人化の影響で年々少なくなっています。

(3) 総売上高

全体で1軒当りの総売上高は、731,352千円で前年度比14.8%増加、令和元年度比7.2%増加しました。

・大規模	2,014,809 千円	(前年度比	+456,058 千円	+29.3%)	/	令和元年度比	+308,339 千円	+18.1%)
・中規模	689,008 千円	(前年度比	+90,066 千円	+15.0%)	/	令和元年度比	+85,938 千円	+14.3%)
・小規模	239,906 千円	(前年度比	+10,784 千円	+4.7%)	/	令和元年度比	+57,586 千円	+31.6%)

全ての規模においてコロナ禍の収束により大きく増加しています。特に出遅れていた大規模旅館の回復が鮮明です。また、黒字・赤字別では、売上高に顕著な差があります。

・大規模	黒字：2,255,465 千円	赤字：1,052,186 千円	黒字が赤字に比べ114.4%多い
・中規模	黒字：667,545 千円	赤字：736,109 千円	黒字が赤字に比べ9.3%少ない
・小規模	黒字：275,728 千円	赤字：183,800 千円	黒字が赤字に比べ50.0%多い

(4) 年間宿泊人員

1軒あたり年間宿泊人員は全体で30,858人となり、前年度比8.3%増加、令和元年度比14.7%減少しました。

・大規模	89,445 人	(前年度比	+16,813 人	+23.1%	/	令和元年度比	+2,108 人	+2.4%)
------	----------	-------	-----------	--------	---	--------	----------	--------

- ・ 中規模 27,804 人（前年度比 + 1,068 人 + 4.0% / 令和元年度比 ▲4,878 人 ▲14.9%）
- ・ 小規模 8,503 人（前年度比 ▲ 398 人 ▲ 4.5% / 令和元年度比 +1,084 人 +14.6%）

表4 1棟あたりの総客室数・収容定員・1室当り定員

年度		全体	（大規模）	（中規模）	（小規模）
総客室数（室）	30 年	70	168	57	19
	令和 元 年	70	173	61	18
	2 年	65	161	56	19
	3 年	63	181	58	19
	4 年	64	172	58	19
	5 年	64	181	59	18
収容定員（人）	30 年	299	679	264	78
	令和 元 年	373	659	257	80
	2 年	261	623	232	68
	3 年	240	659	239	71
	4 年	245	659	215	78
	5 年	236	630	230	68
1室当り定員（人）	30 年	4.3	4.0	4.7	4.1
	令和 元 年	4.0	3.8	4.3	4.4
	2 年	4.0	3.9	4.1	3.6
	3 年	3.8	3.6	4.1	3.7
	4 年	3.8	3.8	3.7	4.2
	5 年	3.7	3.5	3.9	3.7

表5 総売上高、年間宿泊人員

年度		全体	（大規模）	（中規模）	（小規模）
総売上高（千円）	30 年	824,120	1,917,550	706,000	216,380
	令和 元 年	682,520	1,706,470	603,070	182,320
	2 年	445,128	1,124,806	362,041	164,853
	3 年	377,669	880,242	418,838	138,434
	4 年	636,817	1,558,751	598,942	229,122
	5 年	731,352	2,014,809	689,008	239,906
年間宿泊人員（人）	30 年	40,028	94,301	34,095	9,970
	令和 元 年	36,170	87,337	32,682	7,419
	2 年	20,958	48,278	18,080	5,642
	3 年	18,915	50,806	19,640	5,761
	4 年	28,491	72,632	26,736	8,901
	5 年	30,858	89,445	27,804	8,503

2. 貸借対照表 <表 6、表 7、表 8、表 9>

(1) 資産の状況

1 軒当りの総資産額は、全体で 1,455,139 千円となり、前年度から 16.0%増加、令和元年度から 15.4%増加しています。

- ・大規模 4,275,223 千円（前年度比 +1,054,119 千円 + 32.7%）
/ 令和元年度比 + 941,683 千円 + 28.2%）
- ・中規模 1,353,627 千円（前年度比 + 175,979 千円 + 14.9%）
/ 令和元年度比 + 346,907 千円 + 34.5%）
- ・小規模 441,875 千円（前年度比 + 49,181 千円 + 12.5%）
/ 令和元年度比 + 141,185 千円 + 47.0%）

表6 1軒当り資産

（単位：千円）

年度		全体	（大規模）	（中規模）	（小規模）
総資産額	30 年	1,453,900	3,370,340	1,178,020	284,190
	令和 元 年	1,261,460	3,333,540	1,006,720	300,690
	2 年	1,388,164	3,876,485	1,092,891	372,655
	3 年	1,100,433	2,791,655	1,147,962	344,268
	4 年	1,254,379	3,221,104	1,177,648	392,694
	5 年	1,455,139	4,275,223	1,353,627	441,875
長短借入金合計	30 年	973,170	2,086,990	885,710	168,400
	令和 元 年	995,680	2,654,060	788,580	230,030
	2 年	976,754	2,582,449	837,919	255,274
	3 年	897,302	2,260,902	978,269	241,421
	4 年	997,359	2,614,050	976,491	242,138
	5 年	889,219	2,396,932	921,971	240,622

① 流動資産

流動資産は現預金や売掛金など流動性の高い資産です。総資産に占める割合は 29.9%と前年度から 1.0 ポイント増加しました。令和元年度からは 6.8 ポイント増加しています。

② 固定資産

固定資産は総資産の 69.3%（前年度より 1.4 ポイント減少、令和元年度より 10.2 ポイント減少）を占め、前回調査より減少しました。コロナ禍で設備投資が減少し償却が増加したと推測されます。

(2) 負債・資本の状況

① 流動負債

流動負債は、1 年以内に返済や支払が予定される短期借入金や買掛金、未払金等です。今回の調査で総資本に占める割合は 16.8%（前年度より 5.5 ポイント減少、令和元年度より 0.1 ポイント増加）でした。規模別では、大規模が 13.6%、中規模が 16.6%、小規模が 30.3%でした。

資金繰り上、流動負債を流動資産が上回ることが健全です。

② 長短借入金

長期借入金と短期借入金の合計が総資本に占める割合は61.1%となり、前年度より18.4ポイント減少、令和元年度より17.8ポイント減少しました。所謂ゼロゼロ融資による借入金の返済が進んだことあると思われます。

③ 自己資本（純資産）比率

企業の安全度・健全度を示す最も重要な指標です。基本的には過去の利益の積み重ねですので、金融機関が重視する指標です

全体で22.6%と、前年度より15.9ポイント増加、令和元年度より5.0ポイント増加しました。規模別では、大規模 33.0%、中規模 15.4%、小規模 9.4%でした。黒字全体が27.5%、赤字全体は-4.7%でした。マイナスは債務超過状態であり、劣後債等により早急にマイナス状態から脱却が必要です。

表7 貸借対照表 (単位: %)

	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
流動資産	29.9	34.7	26.5	24.2
固定資産	69.3	65.0	72.6	73.5
繰延資産	0.8	0.3	0.9	2.2
資産の部合計	100.0	100.0	100.0	100.0
流動負債	16.8	13.6	16.6	30.3
(うち短期借入金)	4.4	4.8	3.9	4.6
固定負債	60.5	53.4	68.0	60.3
(うち長期借入金)	56.7	51.3	64.2	49.9
(長短借入金合計)	61.1	56.1	68.1	54.5
純資産	22.6	33.0	15.4	9.4
負債・資本の合計	100.0	100.0	100.0	100.0

表8 資産と借入金 (単位: %)

	年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
流動資産	30年	19.3	19.2	19.0	23.2
	令和元年	20.3	21.2	19.2	19.7
	2年	23.1	22.0	23.8	26.8
	3年	23.1	24.5	20.6	27.3
	4年	28.9	29.1	30.0	24.6
	5年	29.9	34.7	26.5	24.2
固定資産	30年	80.5	80.8	80.7	76.6
	令和元年	79.5	78.8	80.4	79.9
	2年	76.7	78.0	75.7	72.6
	3年	76.3	75.1	78.8	71.4
	4年	70.7	70.5	70.0	73.6
	5年	69.3	65.0	72.6	73.5
長短借入金合計	30年	66.9	61.9	75.2	59.3
	令和元年	78.9	79.6	78.3	76.5
	2年	70.4	66.6	76.7	68.5
	3年	81.5	81.0	85.2	70.1
	4年	79.5	81.2	82.9	61.7
	5年	61.1	56.1	68.1	54.5

表9 地域別自己資本比率 (単位: %)

	地域別自己資本比率
全体	22.6
大規模	33.0
中規模	15.4
小規模	9.4
北海道	13.9
東北	25.2
関東	7.8
北陸信越	8.1
中部	19.3
関西	41.2
中国	9.4
四国	10.1
九州	44.0
黒字	27.5
赤字	▲ 4.7

3. 資本効率・借入金償還年数＜表 10＞

(1) 総資本利益率

$$\text{総資本利益率} = \text{経常利益} \div \text{総資本} \times 100$$

総資本利益率は総資本に対する経常利益の割合を示します。全体平均は 3.99%で前年度より 1.89 ポイント改善、令和元年度より 2.99 ポイント改善しました。

- ・大規模 4.3% (前年度比 +4.3P / 令和元年度比 +4.1P)
- ・中規模 3.7% (前年度比 +0.6P / 令和元年度比 +2.5P)
- ・小規模 3.4% (前年度比 ▲3.6P / 令和元年度比 ▲1.9P)

黒字・赤字別では、

- ・黒字：5.56% 赤字：▲4.15%

(2) 総資本回転率

$$\text{総資本回転率} = \text{総売上高} \div \text{総資本} \times 100$$

総資本回転率は総資本に対する売上高です。この数値が高いほど資本効率が良いと言えます。全体平均は 0.50 回転であり前年度から 0.01 回減少しました。もっと高めなければいけません。規模が大きくなるほど低くなっています。パブリックスペースが広くて固定資産が多額になっていると思われる。

- ・大規模 0.47 回 (前年度比 ▲0.01 回 ▲1.8% / 令和元年度比 ▲0.08 回 ▲14.3%)
- ・中規模 0.51 回 (前年度比 ± 0.0 回 ▲0.2% / 令和元年度比 ▲0.20 回 ▲28.3%)
- ・小規模 0.54 回 (前年度比 ▲0.04 回 ▲6.4% / 令和元年度比 ▲0.10 回 ▲15.2%)

黒字・赤字別では、

- ・黒字：0.50 回 赤字：0.53 回

(3) 借入金償還年数

$$\text{借入金償還年数} = (\text{長期借入金} + \text{短期借入金}) \div (\text{減価償却費} + \text{経常利益})$$

借入金償還年数は借入金を理論上何年で償還出来るかを見る指標です。よって年数が少ないほど良くなります。本調査では便宜上、減価償却費と経常利益を借入金返済の原資と計算しました。

装置産業である宿泊業にとって借入金が多額になることはある意味やむを得ませんが、安定的な利益を確保し、10 年以内で償還出来るようにしたいものです。今回の調査結果はその目標を達成しました。

全体平均は 8.2 年であり令和元年度から 10.9 年減少しました。

- ・大規模 7.5 年 (前年度比 ▲17.9 年 ▲70.4% / 令和元年度比 ▲16.1 年 ▲68.2%)
- ・中規模 9.4 年 (前年度比 ▲ 2.6 年 ▲21.4% / 令和元年度比 ▲ 8.7 年 ▲47.9%)
- ・小規模 7.3 年 (前年度比 + 1.8 年 +32.1% / 令和元年度比 ▲ 1.5 年 ▲17.4%)

黒字・赤字別では、

- ・黒字：6.2 年 赤字：2308.5 年

表10 資本効率・資金回収年数

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
総資本利益率(%)	30年	1.3	1.3	1.2	2.5
	令和元年	1.0	0.2	1.2	5.3
	2年	▲ 5.1	▲ 6.2	▲ 4.4	▲ 1.4
	3年	▲ 2.7	▲ 5.9	1.9	0.1
	4年	2.1	0.0	3.1	7.0
	5年	4.0	4.3	3.7	3.4
総資本回転率(回)	30年	0.60	0.57	0.60	0.80
	令和元年	0.62	0.55	0.71	0.64
	2年	0.32	0.29	0.35	0.44
	3年	0.34	0.32	0.36	0.40
	4年	0.51	0.48	0.51	0.58
	5年	0.50	0.47	0.51	0.54
借入金償還年数(年)	30年	13.9	12.9	16.2	10.2
	令和元年	19.1	23.6	18.1	8.8
	2年	▲ 39.8	▲ 25.3	▲ 54.2	32.2
	3年	109.2	▲ 32.4	15.6	18.3
	4年	14.0	25.4	12.0	5.5
	5年	8.2	7.5	9.4	7.3

4. 売上構成比 <図 2、表 11>

総売上の内訳は「宿泊料理売上」「飲物売上」「売店売上」「その他売上」としています。

宿泊料理売上の比率が低くなりましたが、各旅館ホテルにより計上する売上科目が大きく違いますので原因は不明です。

(1) 宿泊料理売上

総売上高に占める宿泊料理売上の割合は全体平均で 82.0%となり前年度から 2.0 ポイント減少、令和元年度から 9.3 ポイント増加しました。

- ・大規模 70.5% (前年度比 ▲12.1P ▲14.6% / 令和元年度比 ▲3.8P ▲5.1%)
- ・中規模 83.7% (前年度比 +0.3P +0.4% / 令和元年度比 +14.0P +20.1%)
- ・小規模 83.8% (前年度比 ▲7.1P ▲7.8% / 令和元年度比 +4.2P +5.3%)

黒字・赤字別

- ・全体 黒字：81.3% 赤字：85.6%
- ・大規模 黒字：69.9% 赤字：84.4%
- ・中規模 黒字：82.2% 赤字：89.7%
- ・小規模 黒字：86.4% 赤字：76.7%

(2) 飲物売上

飲物売上の構成比は、全体平均で 3.5%、前年度比 0.3 ポイント増加、令和元年度から 2.5 ポイント減少しました。

- ・大規模 8.4% (前年度比 +5.4P +178.7% / 令和元年度比 +4.0P +90.0%)
- ・中規模 3.7% (前年度比 +0.3P +8.8% / 令和元年度比 ▲4.0P ▲51.9%)
- ・小規模 3.2% (前年度比 ▲0.2P ▲5.9% / 令和元年度比 ▲3.1P ▲49.2%)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：3.5% 赤字：3.6%
- ・大規模 黒字：8.5% 赤字：3.5%
- ・中規模 黒字：3.8% 赤字：3.5%
- ・小規模 黒字：2.9% 赤字：4.0%

(3) 売店売上

全体平均で 3.1%、前年度比 0.1 ポイント減少、令和元年度比 1.6 ポイント減少しました。

- ・大規模 9.7% (前年度比 +5.4P +125.6% / 令和元年度比 +3.6P +59.0%)
- ・中規模 2.6% (前年度比 +0.2P +8.3% / 令和元年度比 ▲0.8P ▲23.5%)
- ・小規模 1.8% (前年度比 ±0.0P ±0.0% / 令和元年度比 ▲2.1P ▲53.8%)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：3.1% 赤字：3.0%
- ・大規模 黒字：9.4% 赤字：4.9%

- ・中規模 黒字：2.7 % 赤字：2.1 %
- ・小規模 黒字：1.5 % 赤字：2.4 %

(4) その他売上

その他売上の構成比は、全体平均で 11.4%、前年度比 1.8 ポイント増加、令和元年度比 5.2 ポイント減少しました。

- ・大規模 11.4%（前年度比 +1.2P + 11.8% / 令和元年度比 ▲3.8P ▲25.0%）
- ・中規模 10.0%（前年度比 ▲0.8P ▲ 7.4% / 令和元年度比 ▲9.2P ▲47.9%）
- ・小規模 11.2%（前年度比 +7.2P +180.0% / 令和元年度比 +1.0P + 9.8%）

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：12.1% 赤字： 7.8%
- ・大規模 黒字：12.2% 赤字： 7.2%
- ・中規模 黒字：11.3% 赤字： 4.7%
- ・小規模 黒字： 9.2% 赤字：16.9%

図2 売上構成比（単位：％）

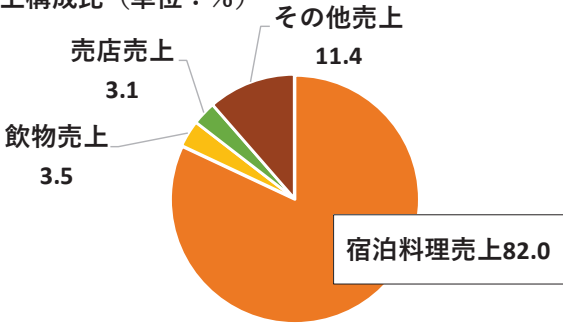


表11 売上構成比 (単位: %)

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
宿泊料理売上	30 年	76.1	73.5	78.4	81.3
	令和 元 年	72.7	74.3	69.7	79.6
	2 年	81.3	82.0	81.5	77.9
	3 年	85.6	86.0	86.9	80.4
	4 年	84.0	82.6	83.4	90.9
	5 年	82.0	70.5	83.7	83.8
飲物売上	30 年	4.9	5.2	4.7	4.5
	令和 元 年	6.0	4.4	7.7	6.3
	2 年	3.0	3.0	3.1	2.8
	3 年	3.2	2.8	3.3	3.8
	4 年	3.2	3.0	3.4	3.4
	5 年	3.5	8.4	3.7	3.2
売店売上	30 年	5.0	6.2	3.6	3.7
	令和 元 年	4.7	6.1	3.4	3.9
	2 年	3.2	3.6	3.1	1.9
	3 年	3.3	4.5	2.7	2.0
	4 年	3.2	4.3	2.4	1.8
	5 年	3.1	9.7	2.6	1.8
その他売上	30 年	14.0	15.0	13.3	10.6
	令和 元 年	16.6	15.2	19.2	10.2
	2 年	12.5	11.4	12.3	17.4
	3 年	8.0	6.8	7.0	13.8
	4 年	9.6	10.2	10.8	4.0
	5 年	11.4	11.4	10.0	11.2

5. 原価率 <図 3、表 12>

(1) 売上総原価率

$$\text{売上総原価率} = \text{原価} \div \text{総売上} \times 100$$

総原価率は全体平均で 22.7%（前年度より 1.4 ポイント減少、令和元年度より 0.6 ポイント減少）となりました。

- ・大規模 24.7%（前年度比 ▲4.0P ▲14.0% / 令和元年度比 +1.3P + 5.5%）
- ・中規模 20.9%（前年度比 ▲0.1P ▲ 0.6% / 令和元年度比 ▲2.7P ▲11.5%）
- ・小規模 21.9%（前年度比 +3.8P +20.9% / 令和元年度比 +0.3P + 1.3%）

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：22.2 % 赤字：26.6 %
- ・大規模 黒字：25.0 % 赤字：21.6 %
- ・中規模 黒字：19.9 % 赤字：27.9 %
- ・小規模 黒字：19.0 % 赤字：30.1 %

(2) 料理材料比率

$$\text{料理材料比率} = \text{料理材料費} \div \text{宿泊売上} \times 100$$

全体平均で 18.4%となり、前年度比 0.2 ポイント増加、令和元年度比 3.4 ポイント減少しました。

- ・大規模 20.0%（前年度比 +1.1P +5.7% / 令和元年度比 ±0.0P ▲ 0.2%）
- ・中規模 17.9%（前年度比 ▲0.5P ▲2.9% / 令和元年度比 ▲6.2P ▲25.9%）
- ・小規模 15.6%（前年度比 +0.4P +2.8% / 令和元年度比 ▲5.7P ▲26.6%）

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：18.4% 赤字：18.3%
- ・大規模 黒字：20.4% 赤字：17.1%
- ・中規模 黒字：17.4% 赤字：19.6%
- ・小規模 黒字：15.4% 赤字：16.3%

(3) 飲料仕入率

$$\text{飲料仕入率} = \text{飲物仕入} \div \text{飲物売上} \times 100$$

全体平均で 37.9%となり、前年度比 1.3 ポイント増加、令和元年度比 4.1 ポイント増加しました。

- ・大規模 31.9%（前年度比 ▲ 2.4P ▲ 7.0% / 令和元年度比 ± 0.0P ± 0.0%）
- ・中規模 37.6%（前年度比 + 1.3P + 3.5% / 令和元年度比 + 2.1P + 5.8%）
- ・小規模 60.2%（前年度比 +16.1P +36.5% / 令和元年度比 +25.3P +72.5%）

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：36.8% 赤字：43.0%
- ・大規模 黒字：30.7% 赤字：40.7%
- ・中規模 黒字：36.2% 赤字：43.7%
- ・小規模 黒字：68.3% 赤字：44.1%

(4) 売店仕入率

売店仕入率＝売店仕入÷売店売上×100

全体平均で 67.3% となり、前年度比 12.6 ポイント増加、令和元年度比 2.9 ポイント増加しました。

- ・大規模 71.7% (前年度比 +21.7P +43.5% / 令和元年度比 +8.4P +13.3%)
- ・中規模 64.1% (前年度比 +1.7P +2.7% / 令和元年度比 ▲2.5P ▲3.7%)
- ・小規模 52.3% (前年度比 ▲6.8P ▲11.4% / 令和元年度比 ▲16.2P ▲23.6%)

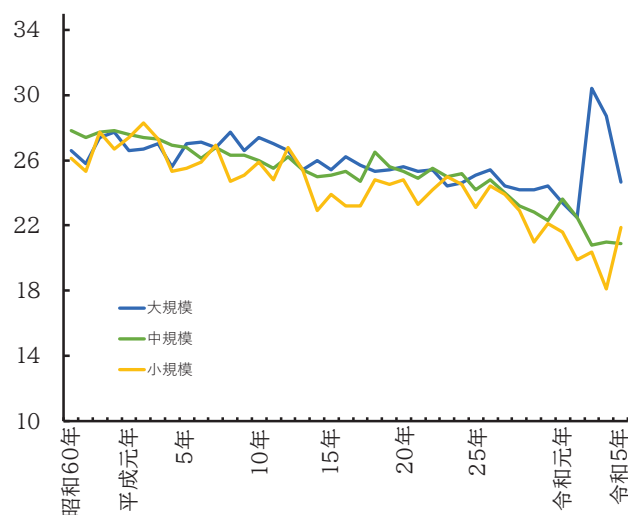
黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：67.3% 赤字：67.2%
- ・大規模 黒字：72.2% 赤字：69.1%
- ・中規模 黒字：64.3% 赤字：63.0%
- ・小規模 黒字：41.7% 赤字：71.3%

表12 原価効率 (単位：%)

	年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
売上総原価率	30年	23.3	24.4	22.3	22.1
	令和元年	23.3	23.4	23.6	21.6
	2年	22.2	22.5	22.5	19.9
	3年	22.6	30.4	20.8	20.4
	4年	24.1	28.7	21.0	18.1
	5年	22.7	24.7	20.9	21.9
料理材料比率	30年	19.3	19.7	18.9	18.7
	令和元年	21.8	20.0	24.1	21.3
	2年	19.1	18.9	19.8	17.5
	3年	17.9	17.9	18.1	16.8
	4年	18.2	18.9	18.4	15.2
	5年	18.4	20.0	17.9	15.6
飲料仕入率	30年	33.5	32.1	35.2	34.4
	令和元年	33.8	31.9	35.5	34.9
	2年	38.9	38.2	51.8	41.5
	3年	35.9	41.5	32.5	34.8
	4年	36.6	34.3	36.3	44.1
	5年	37.9	31.9	37.6	60.2
売店仕入率	30年	65.5	64.5	67.0	68.6
	令和元年	64.4	63.3	66.6	68.5
	2年	65.6	65.4	66.1	65.7
	3年	62.3	62.3	65.5	48.7
	4年	54.7	50.0	62.4	59.1
	5年	67.3	71.7	64.1	52.3

図3 売上総原価率の推移(%)



6. 経費率 <表 13>

当協会の統一会計基準のとおり、経費を人件費、営業費、業務費、管理費、減価償却費の5つに分類しています。

(1) 人件費率

$$\text{人件費率} = \text{人件費} \div \text{総売上} \times 100$$

人件費は役員報酬、給料、退職金、法定福利費、厚生費、外注・委託費、求人費、教育研修費、賞与の合計です。

人件費率は全体平均で 29.7% となり前年度より 4.1 ポイント減少、令和元年度より 5.6 ポイント減少しました。コロナ禍の収束により売上が増加し、比率として低下したと思われます。深刻化している人手不足も比率を下げた要因と思われます。

- ・大規模 27.0% (前年度比 ▲5.7P ▲17.4% / 令和元年度比 ▲8.1P ▲23.0%)
- ・中規模 31.3% (前年度比 ▲3.5P ▲10.2% / 令和元年度比 ▲3.9P ▲11.2%)
- ・小規模 33.6% (前年度比 ▲0.5P ▲1.5% / 令和元年度比 ▲3.2P ▲8.7%)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：29.3% 赤字：34.0%
- ・大規模 黒字：26.6% 赤字：31.0%
- ・中規模 黒字：31.8% 赤字：33.3%
- ・小規模 黒字：31.3% 赤字：40.1%

(2) 営業費率

$$\text{営業費率} = \text{営業費} \div \text{総売上} \times 100$$

営業費は販売促進費、営業所費、営業交通費、接待交際費、広告宣伝費、販売手数料の合計です。

営業費率は全体平均で 11.6% となり前年度より 0.5 ポイント増加、令和元年度と±0 ポイントでした。

大規模旅館における団体の一部復活がエージェント手数料の増加をもたらしたと思われます。

- ・大規模 12.4% (前年度比 +3.3P +29.5% / 令和元年度比 +1.6P +12.6%)
- ・中規模 11.1% (前年度比 ▲0.1P ▲0.7% / 令和元年度比 +0.7P +6.9%)
- ・小規模 10.4% (前年度比 +0.2P +1.5% / 令和元年度比 +0.5P +4.6%)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：11.6% 赤字：12.5%
- ・大規模 黒字：3.1% 赤字：12.9%
- ・中規模 黒字：11.0% 赤字：13.0%
- ・小規模 黒字：10.3% 赤字：10.6%

(3) 業務費率

$$\text{業務費率} = \text{業務費} \div \text{総売上} \times 100$$

業務費はサービス費、備品消耗品費、修繕費、保守管理費、衛生費、車両費、水道光熱費、通信運搬費の合計です。

業務費率は全体平均で 15.3% となり前年度より 0.8 ポイント減少、令和元年度より 0.9 ポイント増加しま

した。

業務費は変動費の割合が多いと考えられますが、一部固定費もあります。コロナ禍前の水準に近づきました。

- ・大規模 14.6% (前年度比 ▲1.4P ▲8.5% / 令和元年度比 +0.5P +3.8%)
- ・中規模 16.0% (前年度比 +0.5P +3.3% / 令和元年度比 +1.0P +6.7%)
- ・小規模 15.4% (前年度比 ▲2.8P ▲15.7% / 令和元年度比 +2.3P +17.7%)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：15.0% 赤字：18.1%
- ・大規模 黒字：14.0% 赤字：19.8%
- ・中規模 黒字：16.2% 赤字：17.5%
- ・小規模 黒字：14.9% 赤字：17.0%

(4) 管理費率

$$\text{管理費率} = \text{管理費} \div \text{総売上} \times 100$$

管理費はリース料、会費・組合費、地代・家賃、顧問料・調査費、保険料、租税公課、事務消耗品費、雑費の合計であり多くは固定費です。

管理費率は全体平均で6.6%となり前年度より2.7ポイント減少、令和元年度より1.8ポイント減少しました。ほとんどが固定費ですので売上が増加したことにより、割合として低下しました。黒字旅館と赤字旅館では売上額の違いもあり大きく違っています。

- ・大規模 6.6% (前年度比 ▲3.3P ▲33.7% / 令和元年度比 ▲1.2P ▲15.8%)
- ・中規模 6.4% (前年度比 ▲2.7P ▲29.7% / 令和元年度比 ▲2.8P ▲30.5%)
- ・小規模 7.2% (前年度比 ▲1.0P ▲11.9% / 令和元年度比 ▲0.5P ▲6.1%)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：6.4% 赤字：7.7%
- ・大規模 黒字：6.3% 赤字：8.5%
- ・中規模 黒字：6.5% 赤字：6.8%
- ・小規模 黒字：6.6% 赤字：9.0%

(5) 減価償却費率

$$\text{減価償却費率} = \text{減価償却費} \div \text{総売上} \times 100$$

建物や設備等の資産を毎年償却する額です。全体平均で6.9%となり前年度より0.1ポイント減少しました。令和元年度より1.2ポイント増加しました。

総売上が増加しましたので金額としては増加していますが、割合としてはほぼ横ばいです。額の増加は補助金等を活用した生産性向上等の設備投資が増加したことによる影響もあると思われます。

- ・大規模 6.8% (前年度比 +0.2P +3.1% / 令和元年度比 +0.6P +9.7%)
- ・中規模 6.9% (前年度比 ▲0.4P ▲5.7% / 令和元年度比 +1.6P +29.8%)
- ・小規模 7.5% (前年度比 +0.1P +1.7% / 令和元年度比 +1.9P +34.4%)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：6.8% 赤字：7.9%
- ・大規模 黒字：6.7% 赤字：8.1%
- ・中規模 黒字：6.9% 赤字：7.7%
- ・小規模 黒字：7.2% 赤字：8.4%

(6) 支払利息率

支払利息率＝支払利息÷総売上×100

総売上に占める支払利息の割合です。全体平均で 1.7%となり前年度より 0.4 ポイント減少、令和元年度より 0.3 ポイント減少しました。

売上の増加により割合として低下しました。

いわゆるゼロゼロ融資の本格的な返済が始まっていることに加え、金利水準の高騰と設備投資により今後高まると予想しております。

- ・大規模 1.5%（前年度比 ▲1.0P ▲40.2%
/ 令和元年度比 ▲0.8P ▲35.0%）
- ・中規模 2.0%（前年度比 ±0.0P ▲2.3%
/ 令和元年度比 +0.1P +2.8%）
- ・小規模 1.5%（前年度比 +0.2P +13.8%
/ 令和元年度比 +0.4P +34.5%）

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：1.5% 赤字：2.7%
- ・大規模 黒字：1.2% 赤字：4.1%
- ・中規模 黒字：1.9% 赤字：2.4%
- ・小規模 黒字：1.5% 赤字：1.5%

表13 経費率

(単位:%)

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
人件費率	30年	34.0	32.9	34.6	37.4
	令和元年	35.3	35.1	35.2	36.8
	2年	48.2	49.5	48.2	43.4
	3年	44.3	44.3	43.7	46.5
	4年	33.8	32.7	34.8	34.1
	5年	29.7	27.0	31.3	33.6
営業費率	30年	10.8	11.4	10.2	10.1
	令和元年	11.6	13.0	10.4	9.9
	2年	13.8	15.4	12.8	10.8
	3年	12.5	13.2	12.4	11.2
	4年	11.1	11.3	11.2	10.2
	5年	11.6	14.6	11.1	10.4
業務費率	30年	16.2	16.7	15.8	14.9
	令和元年	14.4	14.1	15.0	13.1
	2年	20.0	19.3	21.8	17.5
	3年	19.9	17.2	22.0	19.7
	4年	16.1	16.0	15.5	18.3
	5年	15.3	14.6	16.0	15.4
管理費率	30年	7.9	6.4	9.4	10.1
	令和元年	8.4	7.8	9.2	7.7
	2年	11.4	12.6	10.6	9.4
	3年	10.4	13.0	8.6	9.5
	4年	9.3	9.9	9.1	8.2
	5年	6.6	6.6	6.4	7.2
減価償却費率	30年	5.8	6.2	5.6	4.5
	令和元年	5.7	6.2	5.3	5.6
	2年	10.8	11.3	10.6	9.3
	3年	10.0	10.7	9.8	9.2
	4年	7.0	6.6	7.3	7.4
	5年	6.9	6.8	6.9	7.5
支払利息率	30年	1.9	1.9	2.0	1.2
	令和元年	2.0	2.3	1.9	1.1
	2年	3.9	4.0	2.8	6.8
	3年	3.4	3.8	3.6	2.0
	4年	2.1	2.5	2.0	1.3
	5年	1.7	1.5	2.0	1.5

7. 利益率 <図 4、表 14、表 15、表 16>

総売上から原価を引いた売上総利益（粗利益）、そこから経費を引いた営業利益、さらに営業外損益を増減した後の経常利益等を集計しました。

(1) 売上総利益率

$$\text{売上総利益率} = \text{売上総利益} \div \text{総売上} \times 100$$

全体平均で 76.1% となり、前年度より 0.2 ポイント増加、令和元年度より 0.6 ポイント減少しました。

大規模旅は絶対的な売上増加によりロスが減り、比率として増加しました。

- ・大規模 75.3%（前年度比 +4.0P +5.6% / 令和元年度比 ▲2.2P ▲2.8%）
- ・中規模 76.4%（前年度比 ▲2.6P ▲3.2% / 令和元年度比 ▲1.1P ▲1.4%）
- ・小規模 77.3%（前年度比 ▲4.6P ▲5.6% / 令和元年度比 ▲2.8P ▲3.4%）

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：77.6% 赤字：73.4%
- ・大規模 黒字：75.0% 赤字：78.4%
- ・中規模 黒字：80.1% 赤字：72.1%
- ・小規模 黒字：80.0% 赤字：69.9%

(2) 営業利益率

$$\text{営業利益率} = \text{営業利益} \div \text{総売上} \times 100$$

全体平均で 7.4 ポイント増加しました。令和元年度より 4.7 ポイント増加しました。

売上増により経費率が低下し、どの規模においても増加しました。特に大規模旅館において顕著です。

- ・大規模 +7.9%（前年度比 +13.1P / 令和元年度比 +7.4P）
- ・中規模 +4.8%（前年度比 +3.8P / 令和元年度比 +3.4P）
- ・小規模 +4.1%（前年度比 +0.4P / 令和元年度比 ▲1.1P）

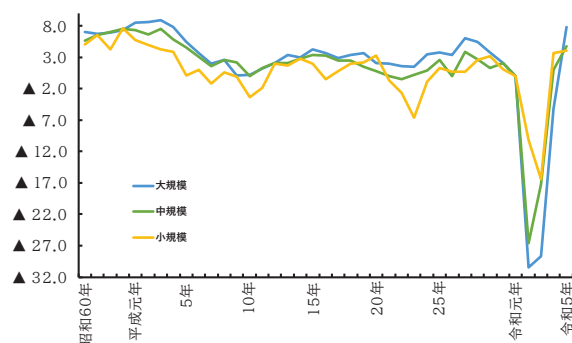
黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：8.6% 赤字：▲6.8%
- ・大規模 黒字：9.0% 赤字：▲1.9%
- ・中規模 黒字：7.6% 赤字：▲6.2%
- ・小規模 黒字：10.8% 赤字：▲15.1%

表14 利益率 (単位: %)

年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
売上総利益率				
30年	76.7	75.6	77.7	77.9
令和元年	76.7	76.6	76.4	78.4
2年	77.8	77.5	77.5	80.1
3年	77.4	69.6	79.2	79.6
4年	75.9	71.3	79.0	81.9
5年	76.1	75.3	76.4	77.3
営業利益率				
30年	2.0	2.1	2.1	1.1
令和元年	1.3	0.5	1.4	5.2
2年	▲26.5	▲30.5	▲26.6	▲10.2
3年	▲19.7	▲28.7	▲17.2	▲16.5
4年	▲1.4	▲5.2	1.0	3.7
5年	6.0	7.9	4.8	4.1

図4 営業利益率の推移(%)



(3) 経常利益率

$$\text{経常利益率} = \text{経常利益} \div \text{総売上} \times 100$$

全体の平均は7.9%になりました。前年度から3.7ポイント増加、令和元年度から6.0ポイント増加しました。

コロナ禍からの回復が鮮明です。人手不足による人件費率の低下も影響しています。インバウンド回復に加え、円安による海外旅行からの代替需要もあると思われます。

- ・大規模 9.0%（前年度比 +9.0P / 令和元年度比 +8.6P）
- ・中規模 7.3%（前年度比 +1.1P / 令和元年度比 +5.4P）
- ・小規模 6.3%（前年度比 ▲5.7P / 令和元年度比 ▲2.4P）

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：11.1% 赤字：▲7.9%
- ・大規模 黒字：10.7% 赤字：▲4.9%
- ・中規模 黒字：10.9% 赤字：▲6.4%
- ・小規模 黒字：14.1% 赤字：▲16.0%

(4) 償却前経常利益率

$$\text{償却前経常利益率} = (\text{経常利益} + \text{減価償却額}) \div \text{総売上} \times 100$$

全体平均は14.9%で、前年度から3.7ポイント増加、令和元年度から7.3ポイント増加しました。

借入金返済の原資として掲載しております。

- ・大規模 15.8%（前年度比 +9.2P / 令和元年度比 +24.9P）
- ・中規模 14.2%（前年度比 +0.7P / 令和元年度比 +18.5P）
- ・小規模 13.8%（前年度比 ▲5.5P / 令和元年度比 +9.0P）

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：17.9% 赤字：0.1%
- ・大規模 黒字：17.3% 赤字：3.2%
- ・中規模 黒字：17.8% 赤字：1.3%
- ・小規模 黒字：21.3% 赤字：▲7.5%

表15 利益率 (単位：%)

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
経常利益率	30年	2.3	2.3	2.1	2.8
	令和元年	1.9	0.4	1.9	8.7
	2年	▲16.3	▲20.3	▲14.9	▲4.5
	3年	▲7.9	▲18.6	5.2	0.3
	4年	4.2	0.0	6.2	12.0
	5年	7.9	9.0	7.3	6.3
償却前経常利益率	30年	8.1	8.5	7.8	7.3
	令和元年	7.6	6.6	7.2	14.3
	2年	▲5.5	▲9.1	▲4.3	4.8
	3年	2.2	▲7.9	15.0	9.5
	4年	11.2	6.6	13.5	19.3
	5年	14.9	15.8	14.2	13.8

表16 地域別経常利益率 (単位：%)

	地域別経常利益率
全体	7.9
大規模	9.0
中規模	7.3
小規模	6.3
北海道	2.2
東北	3.1
関東	10.6
北陸信越	10.3
中部	6.9
関西	9.7
中国	5.8
四国	5.4
九州	8.6
黒字	11.1
赤字	▲7.9

8. GOP 率 <表 17>

宿泊業の指標として重要視されている GOP（償却前営業利益）も集計しました。

(1) 総売上対 GOP 率

$$\text{総売上対 GOP} = \text{GOP（営業利益+減価償却費）} \div \text{総売上} \times 100$$

GOP は Gross Operating Profit の略で、運営総利益を表します。全体平均で 13.0% となり、飛躍的に改善しました。前年度より 7.4 ポイント増加、令和元年度より 5.9 ポイント増加しました。

- ・大規模 14.7%（前年度比 +13.3P / 令和元年度比 +8.0P）
- ・中規模 11.7%（前年度比 + 3.3P / 令和元年度比 +5.0P）
- ・小規模 11.6%（前年度比 + 0.5P / 令和元年度比 +0.7P）

黒字・赤字別では、

- ・黒字：15.5% 赤字：1.2%

(2) 借入金対 GOP 率

$$\text{借入金対 GOP 率} = \text{GOP（営業利益+減価償却費）} \div \text{長短借入金} \times 100$$

全体平均で 10.7% となり、前年度より 7.1 ポイント増加、令和元年度より 5.9 ポイント増加しました。装置産業である旅館業はどうしても借入金が多くなりますので、有益な指標です。

- ・大規模 12.3%（前年度比 +11.5P / 令和元年度比 +8.0P）
- ・中規模 8.7%（前年度比 + 3.6P / 令和元年度比 +3.6P）
- ・小規模 11.5%（前年度比 + 1.0P / 令和元年度比 +2.9P）

黒字・赤字別では、

- ・黒字：13.8% 赤字：0.7%

(3) 1 室当り GOP 額

$$\text{1 室当り GOP 額} = \text{GOP（営業利益+減価償却費）} \div \text{客室数}$$

全体平均で 1,474.1 千円となり、前年度より 915.4 千円改善、令和元年度より 789.1 千円改善しました。

- ・大規模 1,630.1 千円（前年度比 +1500.7 千円 / 令和元年度比 +968.6 千円）
- ・中規模 1,355.3 千円（前年度比 + 498.9 千円 / 令和元年度比 +695.9 千円）
- ・小規模 1,503.4 千円（前年度比 + 135.7 千円 / 令和元年度比 +403.4 千円）

黒字・赤字別では、

- ・黒字：1,790.9 千円 赤字：116.2 千円

(4) 1 m²当り GOP 額

$$\text{1 m}^2\text{当り GOP 額} = \text{GOP（営業利益+減価償却費）} \div \text{延床面積}$$

全体平均で 10.7 千円となり、前年度より 6.7 千円改善、令和元年度より 5.2 千円改善しました。

- ・大規模 12.1 千円（前年度比 +11.2 千円 / 令和元年度比 +6.9 千円）
- ・中規模 9.6 千円（前年度比 + 3.7 千円 / 令和元年度比 +4.0 千円）
- ・小規模 11.4 千円（前年度比 + 1.4 千円 / 令和元年度比 +2.4 千円）

黒字・赤字別では、

・黒字：13.2 千円 赤字：0.9 千円

表17 売上構成比

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
総売上高対 G O P 率 (%)	30 年	7.8	8.3	7.7	5.5
	令和 元 年	7.0	6.7	6.7	10.9
	2 年	▲ 15.7	▲ 19.3	▲ 15.9	▲ 1.0
	3 年	▲ 9.7	▲ 18.0	▲ 7.5	▲ 7.3
	4 年	5.6	1.4	8.4	11.1
	5 年	13.0	14.7	11.7	11.6
借入金対 G O P 率 (%)	30 年	7.7	7.6	6.1	7.1
	令和 元 年	4.8	4.3	5.1	8.6
	2 年	▲ 7.2	▲ 8.4	▲ 6.9	▲ 0.6
	3 年	▲ 4.1	▲ 7.0	▲ 3.2	▲ 4.2
	4 年	3.6	0.8	5.1	10.5
	5 年	10.7	12.3	8.7	11.5
1 室あたり G O P 額 (千円)	30 年	921.7	954.1	950.5	629.5
	令和 元 年	685.0	661.4	659.3	1,100.0
	2 年	▲ 1,075.2	▲ 1,346.4	▲ 1,030.0	▲ 83.6
	3 年	▲ 581.9	▲ 879.1	▲ 533.9	▲ 531.5
	4 年	558.7	129.4	856.4	1,367.7
	5 年	1,474.1	1,630.1	1,355.3	1,503.4
1 m ² あたり G O P 額 (千円)	30 年	7.0	8.4	5.8	4.9
	令和 元 年	5.6	5.3	5.5	9.0
	2 年	▲ 7.0	▲ 8.2	▲ 7.3	▲ 0.6
	3 年	▲ 4.6	▲ 7.1	▲ 3.9	▲ 4.7
	4 年	4.0	0.9	5.9	10.0
	5 年	10.7	12.1	9.6	11.4

9. 定員稼働率・客室稼働率 <図 5、表 18、表 19>

全体の稼働率は定員を基準とする「定員稼働率」と客室を基準とする「客室稼働率」があります。団体旅行の多い時代には定員稼働率が重視されましたが、個人化が進んだ現在は客室稼働率の方が重要です。

(1) 定員稼働率

定員稼働率＝宿泊人員÷（収容定員×営業日数）×100

全体全体では 40.6%で、前年度から 4.5 ポイント増加、令和元年度から 4.2 ポイント増加しました。コロナ禍以前を超えました。特に大規模旅館において回復が顕著です。

- ・大規模 42.3%（前年度比 +9.9P +30.6% / 令和元年度比 + 4.9P +13.1%）
- ・中規模 36.0%（前年度比 ▲1.4P ▲ 3.6% / 令和元年度比 + 0.3P + 1.0%）
- ・小規模 41.8%（前年度比 +3.9P +10.2% / 令和元年度比 +13.3P +46.6%）

黒字・赤字別では、

- ・黒字：44.7% ・赤字：38.0%

(2) 客室稼働率

客室稼働率＝利用客室数÷（客室数×営業日数）×100

全体平均は 56.9%で前年度から 1.0 ポイント減少、令和元年度から 4.9 ポイント減少しました。ほぼ横ばいでした。

- ・大規模 52.0%（前年度比 ▲1.0P ▲2.0% / 令和元年度比 ▲12.2P ▲19.1%）
- ・中規模 61.0%（前年度比 +0.1P +0.1% / 令和元年度比 ▲ 0.2P ▲ 0.4%）
- ・小規模 63.9%（前年度比 ▲1.3P ▲2.0% / 令和元年度比 +13.6P +27.1%）

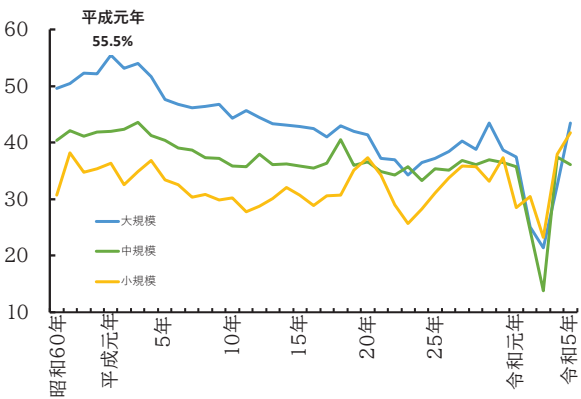
黒字・赤字別では、

- ・黒字：58.7% ・赤字：52.8%

表18 稼働率・1室当り宿泊利用人員

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
定員稼働率(%)	30年	38.1	38.7	36.5	37.3
	令和元年	36.4	37.4	35.7	28.5
	2年	25.1	25.0	24.4	30.4
	3年	21.3	21.4	13.8	23.2
	4年	36.1	32.4	37.4	37.9
	5年	40.6	42.3	36.0	41.8
客室稼働率(%)	30年	64.0	64.5	64.6	57.4
	令和元年	61.8	64.2	61.2	50.3
	2年	45.5	44.6	46.8	49.5
	3年	36.3	35.0	40.2	38.6
	4年	57.9	53.0	60.9	65.2
	5年	56.9	52.0	61.0	63.9
宿泊利用人員(1室当り)(人)	30年	2.58	2.47	2.73	2.60
	令和元年	2.49	2.71	2.50	2.27
	2年	2.40	2.26	2.40	3.74
	3年	2.25	2.20	1.40	2.20
	4年	2.29	2.32	2.22	2.41
	5年	2.52	2.79	2.27	2.43

図5 定員稼働率の推移(%)



(3) 地域別稼働率

サンプル数が少ない地域において規模別集計が偏った数値になっていますので、全体数値を参考にして下さい。

表19 地域別稼働率 (単位: %)

地域		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
定員稼働率	北海道	45.4	42.9	40.2	51.0
	東北	30.2	26.3	29.0	31.8
	関東	32.9	—	30.3	44.2
	北陸信越	34.6	69.5	27.9	46.8
	中部	39.8	54.2	35.0	41.0
	関西	46.3	47.0	41.5	52.5
	中国	36.0	31.9	41.9	20.0
	四国	36.0	43.7	35.9	17.7
	九州	44.4	37.0	41.7	74.8
客室稼働率	北海道	49.7	45.7	63.5	62.2
	東北	52.0	53.1	54.6	36.0
	関東	55.1	—	53.2	71.8
	北陸信越	59.2	76.3	49.2	74.2
	中部	43.5	—	65.3	59.7
	関西	69.2	67.3	71.1	69.8
	中国	59.0	63.0	59.1	40.9
	四国	63.9	64.4	63.2	67.7
	九州	59.9	57.3	63.6	64.3

10. 宿泊客1人当り総単価 <図6、表20、表21>

宿泊客1人当りの単価は、売上を宿泊客数で除して求めています。

(1) 宿泊客1人当り総単価

1人当り総単価＝総売上÷年間宿泊人員

全体の平均は23,701円となり、前年度から1,349円増加、令和元年度から4,635円増加しました。
諸物価や人件費の高騰、さらに宿泊数の回復により全国的に宿泊料金を上げた結果だと思われます。

- ・大規模 22,526円 (前年度比 1,065円 + 5.0% / 令和元年度比 2,987円 +15.3%)
- ・中規模 24,781円 (前年度比 2,379円 +10.6% / 令和元年度比 6,171円 +33.2%)
- ・小規模 28,216円 (前年度比 2,474円 + 9.6% / 令和元年度比 3,448円 +13.9%)

黒字・赤字別では、

- ・黒字：22,938円
- ・赤字：22,602円

(2) 宿泊客1人当り宿泊料理単価

1人当り宿泊料理単価＝宿泊料理売上÷宿泊人員

全体平均は18,121円となり、前年度から661円減少、令和元年度から4,406円増加しました。

- ・大規模 15,736円 (前年度比 ▲1,983円 ▲11.2% / 令和元年度比 ▲3,363円 ▲17.6%)
- ・中規模 20,152円 (前年度比 +1,465円 + 7.8% / 令和元年度比 +3,822円 +23.4%)
- ・小規模 23,324円 (前年度比 ▲ 65円 ▲ 0.3% / 令和元年度比 + 574円 + 2.5%)

黒字・赤字別では、

- ・黒字：17,381円
- ・赤字：19,328円

(3) 宿泊客1人当り飲物単価

1人当り飲物単価＝飲物売上÷宿泊人員

全体平均は782円となり、前年度から64円増加、令和元年度から147円増加しました。

- ・大規模 684円 (前年度比 + 34円 + 5.2% / 令和元年度比 ▲168円 ▲19.8%)
- ・中規模 896円 (前年度比 +142円 +18.8% / 令和元年度比 ▲652円 ▲42.1%)
- ・小規模 882円 (前年度比 + 18円 + 2.1% / 令和元年度比 ▲800円 ▲47.5%)

黒字・赤字別では、

- ・黒字：754円
- ・赤字：815円

(4) 宿泊客1人当り売店単価

1人当り売店単価＝売店売上÷宿泊人員

全体平均は678円となり、前年度から29円減少、令和元年度から295円減少しました。

- ・大規模 784円 (前年度比 ▲128円 ▲14.0% / 令和元年度比 ▲414円 ▲34.6%)
- ・中規模 632円 (前年度比 + 87円 +15.9% / 令和元年度比 ▲ 84円 ▲11.8%)

・小規模 498 円 (前年度比 + 30 円 + 6.3% / 令和元年度比 ▲527 円 ▲51.5%)

黒字・赤字別では、

・黒字：660 円 ・赤字：674 円

(5) 宿泊客 1 人当りその他単価

1 人当りその他単価＝その他売上÷宿泊人員

全体平均は 2,522 円となり、前年度から 378 円増加、令和元年度から 644 円減少しました。

・大規模 2,560 円 (前年度比 + 380 円 + 17.4% / 令和元年度比 ▲405 円 ▲13.7%)

・中規模 2,431 円 (前年度比 + 14 円 + 0.6% / 令和元年度比 ▲1,051 円 ▲30.2%)

・小規模 3,108 円 (前年度比 +2,086 円 +204.1% / 令和元年度比 + 610 円 +24.4%)

黒字・赤字別では、

・黒字：2,602 円 ・赤字：1,762 円

表20 宿泊客1人当りの総売上高 (単位:円)

年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
30 年	20,589	20,334	20,707	21,704
令和 元 年	19,066	19,539	18,610	24,768
2 年	21,239	23,298	20,024	29,216
3 年	19,967	17,326	21,326	24,028
4 年	22,352	21,461	22,402	25,742
5 年	23,701	22,526	24,781	28,216

図6 客1人当り総売上高の推移

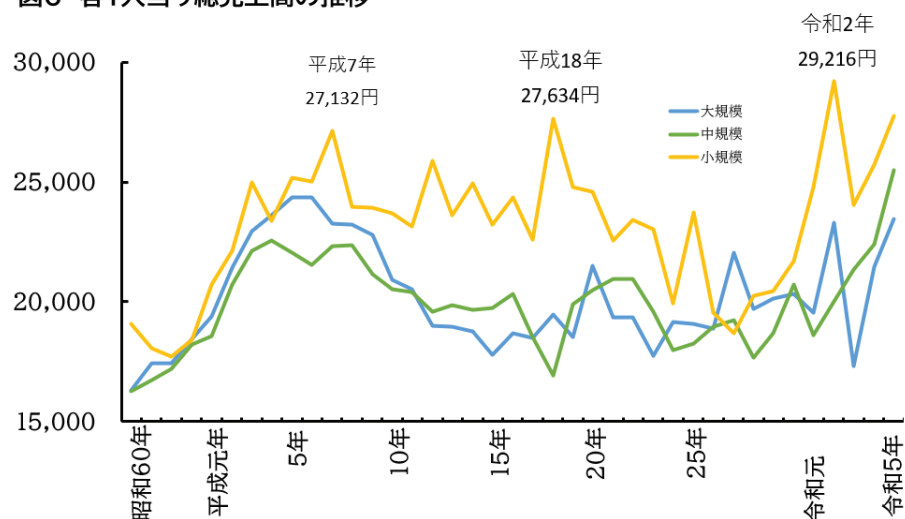


表21 宿泊客1人当り売上高

(単位:円)

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
宿泊料 理売上	30 年	15,670	14,951	16,233	17,639
	令和 元 年	13,715	14,525	12,864	19,562
	2 年	17,267	19,099	16,330	22,750
	3 年	17,088	14,903	18,536	19,311
	4 年	18,782	17,719	18,687	23,389
	5 年	18,121	15,736	20,152	23,324
飲物 売上	30 年	1,016	1,052	977	971
	令和 元 年	1,213	852	1,548	1,682
	2 年	635	695	611	826
	3 年	638	478	714	913
	4 年	718	650	754	864
	5 年	782	684	896	882
売店 売上	30 年	1,023	1,271	742	797
	令和 元 年	973	1,198	716	1,025
	2 年	683	849	620	552
	3 年	652	775	574	491
	4 年	707	912	545	468
	5 年	678	784	632	498
その他 売上	30 年	2,879	3,060	2,755	2,297
	令和 元 年	3,166	2,965	3,482	2,498
	2 年	2,654	2,655	2,463	5,088
	3 年	1,589	1,170	1,503	3,313
	4 年	2,144	2,180	2,417	1,022
	5 年	2,522	2,560	2,431	3,108

11. 売上効率 <図 7、表 22>

(1) 1 室当り売上高

宿泊業にとって客室 1 室当りの年間売上は重要な指標です。

全体では 11,363 千円と前年度比 14.2%増加、令和元年度比 9.5%増加しました。

コロナ禍以前の水準にはば戻りました。

- ・大規模 11,112 千円（前年度比 +2,025 千円 +22.3% / 令和元年度比 +1,092 千円 +10.9%）
- ・中規模 11,616 千円（前年度比 +1,258 千円 +12.1% / 令和元年度比 + 806 千円 + 7.5%）
- ・小規模 12,985 千円（前年度比 + 641 千円 + 5.2% / 令和元年度比 +2,715 千円 +26.4%）

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：11,585 千円 赤字：10,014 千円
- ・大規模 黒字：11,221 千円 赤字：7,703 千円
- ・中規模 黒字：11,292 千円 赤字：11,947 千円
- ・小規模 黒字：15,185 千円 赤字：10,099 千円

(2) ADR（1 日 1 室当り客室平均単価）（Average Daily Rate の略）

全体では 59,675 円と前年度比 8,107 円増加、令和元年度比 25,487 円増加しました。

- ・大規模 62,946 円（前年度比 13,094 円 +26.3% / 令和元年度比 23,567 円 +59.8%）
- ・中規模 56,329 円（前年度比 5,614 円 +11.1% / 令和元年度比 24,106 円 +74.8%）
- ・小規模 68,448 円（前年度比 6,506 円 +10.5% / 令和元年度比 24,012 円 +54.0%）

黒字・赤字別では、

- ・黒字：57,429 円
- ・赤字：56,155 円

(3) RevPAR（1 日 1 室当りの売上=客室稼働率×ADR）（Revenue Per Available Room の略）

全体では 33,975 円と前年度比 4,383 円増加、令和元年度比 12,855 円増加しました。

- ・大規模 32,710 円（前年度比 6,279 円 +23.8% / 令和元年度比 7,427 円 +29.4%）
- ・中規模 34,343 円（前年度比 3,441 円 +11.1% / 令和元年度比 14,613 円 +74.1%）
- ・小規模 43,745 円（前年度比 3,344 円 + 8.3% / 令和元年度比 21,393 円 +95.7%）

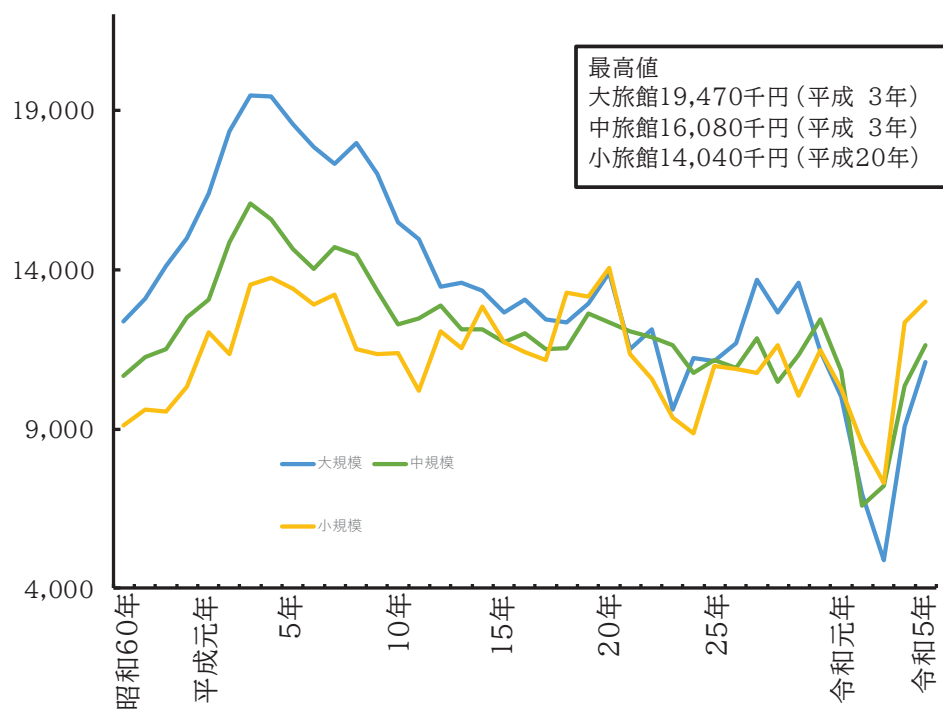
黒字・赤字別では、

- ・黒字：33,724 円
- ・赤字：29,658 円

表22 売上効率

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
1室当り売上高(千円)	30年	11,820	11,440	12,440	11,460
	令和元年	10,380	10,020	10,810	10,270
	2年	6,966	6,954	6,588	8,559
	3年	6,126	4,887	7,215	7,303
	4年	9,949	9,087	10,358	12,344
	5年	11,363	11,112	11,616	12,985
ADR(円)	30年	39,478	34,902	44,580	46,562
	令和元年	34,188	39,379	32,223	44,436
	2年	43,641	43,643	41,936	50,118
	3年	38,267	33,038	42,397	42,267
	4年	51,568	49,852	50,715	61,942
	5年	59,675	62,946	56,329	68,448
RevPAR(円)	30年	25,307	23,322	28,047	25,892
	令和元年	21,120	25,283	19,730	22,352
	2年	19,733	19,278	19,012	25,312
	3年	16,790	13,303	19,718	20,988
	4年	29,592	26,431	30,902	40,401
	5年	33,975	32,710	34,343	43,745

図7 1室当り売上の推移



12. 就業者・就業者効率 <図 8、表 23、表 24、表 25>

旅館ホテル業には様々な雇用形態が存在しますが、本調査では常勤役員、正社員、パートタイマー、アルバイト、派遣社員の合計を就業者としています。

(1) 就業者数

＝常勤役員＋正社員＋パートタイマー、アルバイト、派遣社員

1 軒当り就業者数は規模にほぼ比例しています。

全体の平均は 67.1 人で前年度比 1.9 人減少、令和元年度比 0.9 人減少となりました。

人手不足の影響と思われます。

- ・大規模 138.5 人（前年度比 ▲8 人 ▲5.2% / 令和元年度比 ▲4 人 ▲ 2.5%）
- ・中規模 74.6 人（前年度比 ＋3 人 ＋3.5% / 令和元年度比 ▲3 人 ▲ 4.4%）
- ・小規模 26.5 人（前年度比 ▲1 人 ▲5.3% / 令和元年度比 ＋4 人 ＋15.3%）

表23 就業者数 (単位:人)

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
就 業 者 数	30 年	91	178	90	31
	令和 元 年	74	142	78	23
	2 年	68	161	63	25
	3 年	61	116	73	26
	4 年	69	146	72	28
	5 年	67	138	75	27

(2) 1 室当り就業者数

1 室当り就業者数＝就業者数÷客室数

1 室当りの就業者数は規模全体で 1.04 人であり前年度から 3.4%減少、令和元年度から 0.7%減少しました。

規模別では

- ・大規模 0.76 人（前年度比 ▲0.09 人 ▲10.2% / 令和元年度比 ▲0.06 人 ▲ 6.9%）
- ・中規模 1.26 人（前年度比 ＋0.02 人 ＋ 1.4% / 令和元年度比 ▲0.02 人 ▲ 1.8%）
- ・小規模 1.43 人（前年度比 ▲0.07 人 ▲ 4.4% / 令和元年度比 ＋0.18 人 ＋14.8%）

黒字・赤字別では、

- ・黒字：1.03 人 赤字：1.27 人

(3) 就業者数 1 人当り年間宿泊人員

就業者数 1 人当り年間宿泊人員＝年間宿泊利用人員÷就業者数

就業者 1 人当りの宿泊人員は規模全体で 460 人であり前年度から 11.3%増加、令和元年度から 14.9%減少しました。大規模旅館において宿泊者数が増加したことにより効率としては良くなりました。IT 化、DX 等による生産性の向上であれば結構なことです。

規模別では

- ・大規模 646 人（前年度比 +148 人 +29.7% / 令和元年度比 ▲42 人 ▲6.1%）
- ・中規模 373 人（前年度比 + 1 人 + 0.3% / 令和元年度比 ▲88 人 ▲19.1%）
- ・小規模 321 人（前年度比 + 1 人 + 0.2% / 令和元年度比 ▲44 人 ▲12.1%）

黒字・赤字別では、

- ・黒字：492 人 赤字：349 人

(4) 就業者一人当り売上高

就業者一人当り売上高＝総売上÷就業者数

労働集約産業である旅館ホテルにとって大切な指標です。本調査では常勤役員、社員、パートタイマー・アルバイト、派遣社員を就業者として算出しています。全体平均は 10,892 千円で前年度比 18.0%増加しました。全ての規模で増加しました。宿泊単価の上昇も原因であると考えられます。

- ・大規模 14,551 千円（前年度比 +3,864 千円 +36.2% / 令和元年度比 +1,101 千円 +8.2%）
- ・中規模 9,242 千円（前年度比 + 913 千円 +11.0% / 令和元年度比 + 12 千円 +0.1%）
- ・小規模 9,050 千円（前年度比 + 815 千円 + 9.9% / 令和元年度比 ▲450 千円 ▲4.7%）

黒字・赤字別では、

- ・黒字：11,287 千円 赤字：7,892 千円

(5) 就業者 1 人当り人件費

就業者 1 人当り人件費＝人件費（外注費等も含む）÷就業者数

人件費は協会の統一会計基準における科目を全て含みます。規模全体で 3,233 千円で前年度から 3.8%増加、令和元年度比 15.6%減少しました。全国的な人手不足による賃金上昇によるものです。

規模別では

- ・大規模 3,931 千円
（前年度比 +440 千円 +12.6%
/ 令和元年度比 ▲789 千円 ▲16.7%）
- ・中規模 2,889 千円
（前年度比 ▲10 千円 ▲0.4%
/ 令和元年度比 ▲331 千円 ▲10.3%）
- ・小規模 3,040 千円
（前年度比 +230 千円 + 8.2%
/ 令和元年度比 ▲470 千円 ▲13.4%）

黒字・赤字別では、

- ・黒字：3,304 千円 赤字：2,681 千円

表24 従業員効率

	年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
	30 年	令和 元年				
就業者数（人）	2 年	3 年	4 年	5 年		
	1.31	1.05	1.07	0.98	1.00	1.11
	1.06	0.82	1.00	0.64	1.25	1.38
	1.08	1.08	0.85	1.24	1.50	
	1.04	0.76	1.26	1.43		
年間就業者 1 人当り	30 年	令和 元年	2 年	3 年	4 年	5 年
	438	540	285	240	283	296
	312	312	439	268	220	
	413	413	498	372	320	
	460	460	646	373	321	
売上高（千円）	30 年	令和 元年	2 年	3 年	4 年	5 年
	9,000	10,890	13,450	9,230	9,500	
	6,059	6,059	6,551	5,390	6,282	
	6,226	6,226	7,611	5,717	5,291	
	9,227	9,227	10,687	8,329	8,235	
人件費（千円）	30 年	令和 元年	2 年	3 年	4 年	5 年
	3,060	3,830	4,720	3,220	3,510	
	2,928	2,928	3,240	2,644	2,710	
	2,759	2,759	3,368	2,496	2,460	
	3,114	3,114	3,491	2,899	2,810	
	3,233	3,233	3,931	2,889	3,040	

(6) 労働生産性

労働生産性＝売上総利益÷就業者数

労働生産性を上記の計算式で算出しました。全体平均は 8,285 千円で、前年度から 1,278 千円増加、令和元年度から 905 千円増加しました。

労働集約型産業である旅館にとって労働生産性の向上は発展のうえで不可欠です。優秀な人材を確保し、労働生産性の更なる向上が必要です。

- ・大規模 10,960 千円（前年度比 +3,341 千円 +43.9% / 令和元年度比 +2,000 千円 +22.3%）
- ・中規模 7,065 千円（前年度比 + 483 千円 + 7.3% / 令和元年度比 + 635 千円 + 9.9%）
- ・小規模 7,000 千円（前年度比 + 255 千円 + 3.8% / 令和元年度比 + 840 千円 +13.6%）

黒字・赤字別では、

- ・黒字：8,765 千円 赤字：5,796 千円

労働生産性の違いが黒字・赤字を分けた要因のひとつと考えられます。

(7) 労働分配率

労働分配率＝人件費÷売上総利益×100

売上総利益に占める人件費の割合が労働分配率です。全体平均では 39.0%で、前年度から 5.4 ポイント減少、令和元年度から 7.2 ポイント減少しました。

労働分配率は高ければ利益を圧迫しますが、低くければ良いとは限りません。一人当たりの人件費は増えましたが、人手不足により人件費率が下がり、それに加えて売上総利益が増加しましたので、労働分配率としては低下し会計上は良い傾向です。但し、今後益々増加すると思われます人件費に売上総利益がついてくるかどうか心配です。

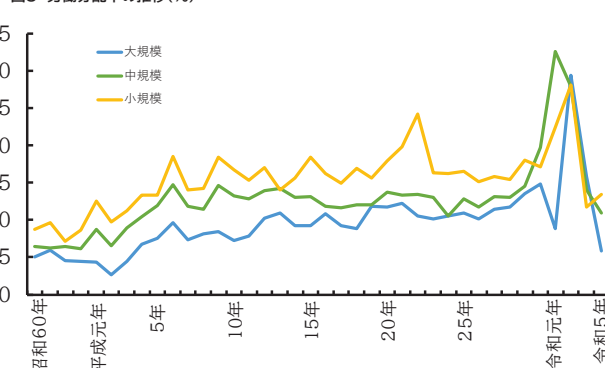
- ・大規模 35.9%（前年度比 ▲9.9P ▲21.7% / 令和元年度比 ▲8.9P ▲19.9%）
- ・中規模 40.9%（前年度比 ▲3.1P ▲ 7.1% / 令和元年度比 ▲8.8P ▲17.7%）
- ・小規模 43.4%（前年度比 +1.7P + 4.1% / 令和元年度比 ▲3.7P ▲ 7.8%）

黒字・赤字別では、黒字：37.7% 赤字：46.3%

表25 労働生産性、労働分配率

	年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
労働生産性 (千円)	30年	6,900	8,130	6,070	5,440
	令和元年	7,380	8,960	6,430	6,160
	2年	4,728	8,358	4,224	5,167
	3年	4,719	5,676	4,311	4,233
	4年	7,007	7,619	6,582	6,745
	5年	8,285	10,960	7,065	7,000
労働分配率 (%)	30年	44.3	43.5	44.5	48.0
	令和元年	46.2	44.8	49.7	47.1
	2年	61.9	38.8	62.6	52.4
	3年	58.5	59.3	57.9	58.1
	4年	44.4	45.8	44.0	41.7
	5年	39.0	35.9	40.9	43.4

図8 労働分配率の推移(%)



13. 延床面積効率＜表 26＞

(1) 1 室当り延べ面積＝延べ面積÷客室数

全体平均では 137 m² となり、前年度と比べ 3.9 m² 減少、令和元年度と比べ 15.1 m² 増加しました。

- ・大規模 134 m² (前年度比 ▲4.0 m² ▲2.7% / 令和元年度比 + 8.3 m² + 6.6%)
- ・中規模 142 m² (前年度比 ▲4.2 m² ▲2.9% / 令和元年度比 +21.8 m² +18.2%)
- ・小規模 132 m² (前年度比 ▲4.0 m² ▲3.3% / 令和元年度比 +11.5 m² + 9.6%)

黒字・赤字別では、

- ・黒字：135 m² 赤字：136 m²

(2) 定員 1 人当り延べ面積

定員 1 人当り延べ面積＝延べ面積÷収容人員

全体平均は 37.4 m² で前年度比 1.7 m² 増加、令和元年度と比べ 26.4 m² 増加しました。

- ・大規模 38.6 m² (前年度比 +2.6 m² + 7.3% / 令和元年度比 +5.6 m² +17.0%)
- ・中規模 36.6 m² (前年度比 ▲2.7 m² ▲ 6.8% / 令和元年度比 +8.4 m² +29.9%)
- ・小規模 35.7 m² (前年度比 +3.4 m² +10.5% / 令和元年度比 +8.2 m² +29.8%)

黒字・赤字別では、

- ・黒字：36.6 m² 赤字：34.4 m²

(3) 延床面積 1 m² 当り売上高

延床面積 1 m² 当り売上＝総売上÷延床面積

延床面積当り売上は、装置産業である宿泊業にとって投資効率を分析するのに適した指標です。

全体では 82.9 千円と、前年度比 12.4 千円増加、令和元年度と比べ 2.5 千円増加しました。

- ・大規模 82.8 千円 (前年度比 +17.1 千円 +26.0% / 令和元年度比 + 2.8 千円 + 3.4%)
- ・中規模 81.9 千円 (前年度比 +10.8 千円 +15.2% / 令和元年度比 ▲ 8.1 千円 ▲ 9.0%)
- ・小規模 98.7 千円 (前年度比 + 8.2 千円 +9.1% / 令和元年度比 +18.2 千円 +22.6%)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：85.5 千円 赤字：73.6 千円
- ・大規模 黒字：83.4 千円 赤字：53.7 千円
- ・中規模 黒字：82.2 千円 赤字：74.6 千円
- ・小規模 黒字：115.6 千円 赤字：75.1 千円

表26 延床面積効率

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
1 室当り延べ面積 (m ²)	30 年	146	131	165	128
	令和 元 年	122	126	120	120
	2 年	154	166	143	135
	3 年	128	124	137	112
	4 年	141	138	146	136
	5 年	137	134	142	132
定員 1 人当り延べ面積 (m ²)	30 年	33.4	31.8	35.3	30.8
	令和 元 年	29.6	33.0	28.2	27.5
	2 年	36.4	38.5	33.6	36.1
	3 年	33.4	33.9	33.6	31.2
	4 年	36.8	36.0	39.3	32.3
	5 年	37.4	38.6	36.6	35.7
延床面積当り売上高 (千円)	30 年	70.9	70.8	70.8	90.3
	令和 元 年	80.4	80.0	90.0	80.5
	2 年	44.9	41.9	45.3	62.3
	3 年	48.0	39.6	52.5	65.0
	4 年	70.5	65.7	71.1	90.5
	5 年	82.9	82.8	81.9	98.7

Ⅱ. 全件調査

以下の項目は、回答された全ての調査票を対象に集計しています。

1. 集客方法<図 9、表 27>

(1) 予約方法

お客様が予約される際の方法を旅行会社、OTA（オンライントラベル）、自社 HP、直予約の 4 つに絞って調査しました。

(2) 旅行会社経由率

旅行会社経由率＝旅行会社経由の宿泊人員÷年間延べ宿泊人員×100

旅行会社経由の予約は毎年減少しておりましたが、今回の調査において全体平均は 27.7%であり、前年度から 0.9 ポイント増加、令和元年度から 13.2 ポイント減少しました。団体のお客様が主に大規模旅館で増加したことが影響しました。

- ・大規模 35.0%（前年度比 +2.0P + 6.0% / 令和元年度比 ▲ 8.4P ▲19.6%）
- ・中規模 22.8%（前年度比 ▲0.3P ▲ 1.5% / 令和元年度比 ▲17.2P ▲43.1%）
- ・小規模 18.4%（前年度比 +2.5P +15.4% / 令和元年度比 ▲ 3.1P ▲14.6%）

黒字・赤字別では、

- ・黒字：26.7% 赤字：32.0%

(3) OTA（オンライントラベル）経由率

OTA 経由率＝OTA 経由の宿泊人員÷年間延べ宿泊人員×100

全体平均は 44.9%であり、前年度から 1.6 ポイント増加、令和元年度から 14.0 ポイント増加しました。前回調査で減少しましたが、再び増加に転じました。

- ・大規模 38.9%（前年度比 +0.9P +2.3% / 令和元年度比 + 8.4P +27.5%）
- ・中規模 49.7%（前年度比 +1.3P +2.8% / 令和元年度比 +20.1P +68.0%）
- ・小規模 50.0%（前年度比 +4.0P +8.6% / 令和元年度比 + 3.1P + 6.5%）

黒字・赤字別では、

- ・黒字：44.7% 赤字：44.9%

(4) 自社 HP 経由率

自社 HP 経由率＝自社 HP 経由の宿泊人員÷年間延べ宿泊人員×100

全体平均は 12.6%であり、前年度から 1.8 ポイント減少、令和元年度から 1.0 ポイント増加しました。コロナ禍収束により新規のお客様による OTA 経由の予約が増え、リピーターからの予約が多い自社 HP 経由の予約比率が減ったのではないのでしょうか？

- ・大規模 10.9%（前年度比 ▲3.3P ▲23.1% / 令和元年度比 +0.2P + 2.1%）
- ・中規模 13.0%（前年度比 ±0.0P ± 0.0% / 令和元年度比 +1.6P +14.1%）
- ・小規模 17.4%（前年度比 ▲2.7P ▲13.4% / 令和元年度比 ▲5.7P ▲24.6%）

黒字・赤字別では、

- ・黒字：13.5% 赤字：9.4%

(4) 直予約（自社HPを除く）経由率

直予約（自社HPを除く）経由率＝直予約（自社HPを除く）の宿泊人員÷年間延べ宿泊人員×100

全体平均は14.8%と、前年度比0.7ポイント減少しました。

- ・大規模 15.2%（前年度比 +0.4P + 2.7%）
- ・中規模 14.5%（前年度比 ▲1.1P ▲ 7.1%）
- ・小規模 14.3%（前年度比 ▲3.7P ▲20.7P）

（令和2年度新しく作った設問であるため、令和元年度比は掲載しておりません。）

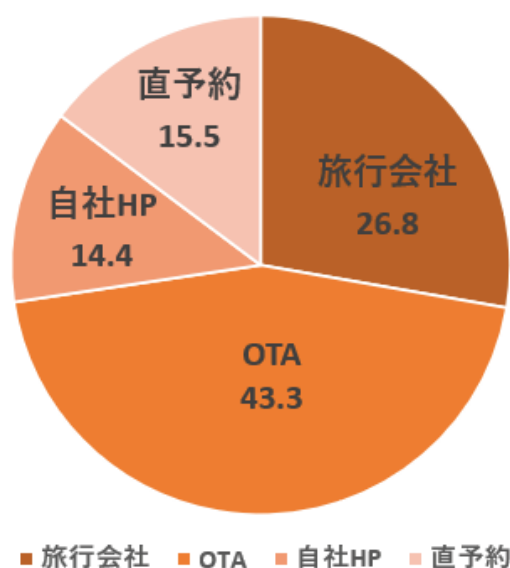
リピーター様は直予約されることが多く、全体の宿泊者が増加したことにより比率として低下したと考えられます。

表27 集客の方法

（単位：%）

年度		全体	（大規模）	（中規模）	（小規模）
旅行会社経由	30年	41.6	46.1	38.7	28.3
	令和元年	40.9	43.5	40.0	21.5
	2年	24.1	27.0	23.7	10.6
	3年	22.5	25.2	21.2	16.9
	4年	26.8	33.0	23.1	15.9
	5年	27.7	35.0	22.8	18.4
OTA経由	30年	26.9	25.7	26.9	34.2
	令和元年	30.9	30.5	29.6	46.9
	2年	48.3	47.6	48.2	51.7
	3年	45.3	43.4	46.9	46.4
	4年	43.3	38.0	48.4	46.0
	5年	44.9	38.9	49.7	50.0
自社HP経由	30年	12.3	11.1	12.6	18.5
	令和元年	11.6	10.7	11.4	23.1
	2年	11.1	10.5	10.3	17.3
	3年	14.9	14.7	14.3	18.3
	4年	14.4	14.2	13.0	20.1
	5年	12.6	10.9	13.0	17.4
直予約	30年	—	—	—	—
	令和元年	—	—	—	—
	2年	16.1	14.3	17.5	19.2
	3年	17.2	16.7	17.3	18.4
	4年	15.5	14.8	15.6	18.0
	5年	14.8	15.2	14.5	14.3

図9 宿泊人員構成



2. ホームページ＜表 28、表 29、表 30＞

(1) 即時予約可能なホームページがある場合の対応言語

外国語ホームページ対応割合は

- ・日本語 : 96.9%
- ・英語 : 73.6%
- ・繁体字 : 42.3%
- ・簡体字 : 39.9%
- ・韓国語 : 31.3%
- ・タイ語 : 6.2%
- ・スペイン語 : 2.5%
- ・ドイツ語 : 2.5%
- ・フランス語 : 3.7%

表28 即時予約可能なHPがある場合の対応言語 (単位:%)

年度	日本語	英語	中国語		韓国語	タイ語	スペイン語	ドイツ語	フランス語
			繁体字	簡体字					
令和5年	96.9	73.6	42.3	39.9	31.3	6.2	2.5	2.5	3.7

(2) 即時予約可能なスマートフォンサイトがある場合の対応言語

スマートフォンの外国語ホームページ対応割合は

- ・日本語 : 98.6%
- ・英語 : 73.4%
- ・繁体字 : 46.3%
- ・簡体字 : 43.1%
- ・韓国語 : 32.1%
- ・タイ語 : 5.6%
- ・スペイン語 : 3.5%
- ・ドイツ語 : 2.8%
- ・フランス語 : 4.3%

表29 即時予約可能なスマートフォンサイトがある場合の対応言語 (単位:%)

年度	日本語	英語	中国語		韓国語	タイ語	スペイン語	ドイツ語	フランス語
			繁体字	簡体字					
令和5年	98.6	73.4	46.3	43.1	32.1	5.6	3.5	2.8	4.3

(3) インターネットでの予約受付方法

全体の平均は、

- ・自社ホームページだけで販売 0.0%
- ・自社ホームページと OTA で販売 96.9%
- ・自社ホームページはなく OTA だけで販売 1.8%
- ・ネット予約は取り扱っていない 1.2%

表30 インターネット対応の状況について (単位:%)

	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
自社HPだけで販売	0.0	0.0	0.0	0.0
自社HPとOTAで販売	96.9	100.0	97.3	95.2
自社HPはなく、OTAだけで販売	1.8	0.0	2.7	1.6
ネット予約は取り扱っていない	1.2	0.0	0.0	3.2

3. インターネット対応 <表 31>

(1) サイトコントローラーの導入状況

サイトコントローラーを導入している全体の平均は 97.5%でした。

大規模： 100.0% 中規模：100.0% 小規模： 93.3%

地域別では関東が 89.5% 四国 90.0%でした。

(2) 公衆無線LANの設置状況、設置場所

公衆無線LANを全館で使えるのは全体で 89.5%です。毎年着実に増加しています。

大規模： 88.9% 中規模： 93.3% 小規模： 85.0%

表31 インターネット対応

(単位:%)

	サイトコントローラーを 導入している	公衆無線LANの設置		
		全館で 使える	一部で 使える	使えない
全 体	97.5	89.5	9.3	1.2
大規模	100.0	88.9	7.4	3.7
中規模	100.0	93.3	6.7	0.0
小規模	93.3	85.0	13.3	1.7
北海道	100.0	100.0	0.0	0.0
東北	100.0	90.9	9.1	0.0
関東	100.0	85.7	14.3	0.0
北陸信越	89.5	84.2	15.8	0.0
中部	100.0	90.0	10.0	0.0
関西	100.0	100.0	0.0	0.0
中国	100.0	81.3	18.8	0.0
四国	90.0	65.0	25.0	10.0
九州	100.0	100.0	0.0	0.0
黒字	99.1	93.2	6.0	0.9
赤字	92.1	81.6	15.8	2.6

4. 外国人宿泊客 <表 32、表 33、表 34、表 35、表 36>

(1) 外国人宿泊人員比率

外国人宿泊人員比率＝外国人宿泊人員÷年間延べ宿泊人員×100

全体における外国人宿泊人員比率は 14.8%となり、前年度から 7.1 ポイント増加、令和元年度から 5.1 ポイント増加しました。

- ・大規模 16.5% (前年度比 + 7.4P + 81.3%
/ 令和元年度比 + 5.8P + 54.2%)
- ・中規模 12.7% (前年度比 + 6.1P + 92.7%
/ 令和元年度比 + 4.2P + 49.6%)
- ・小規模 19.1% (前年度比 + 12.8P + 203.8%
/ 令和元年度比 + 9.2P + 93.3%)

表32 外国人宿泊人員比率 (単位:%)

年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
30 年	9.9	10.3	9.1	11.9
令和元年	9.7	10.7	8.5	9.9
2 年	0.8	1.3	0.7	0.7
3 年	0.2	0.0	0.6	0.1
4 年	7.7	9.1	6.6	6.3
5 年	14.8	16.5	12.7	19.1

(2) 地域別外国人宿泊人員比率

インバウンドのお客様が全国に波及しています。
訪日が二度目、三度目以上というお客様が増加している
為だと思われます。

表33 地域別外国人宿泊人員比率 (単位:%)

地域	令和4年	令和5年	増減
北海道	5.9	24.6	18.7
東北	1.3	5.8	4.5
関東	33.0	22.8	-10.2
北陸信越	3.7	8.3	4.6
中部	2.4	7.0	4.6
関西	9.0	17.1	8.1
中国	1.3	3.9	2.6
四国	1.7	9.5	7.8
九州	4.0	10.9	6.9

(3) 国籍別外国人宿泊人員比率

国籍別外国人＝国別の人員÷外国人宿泊人員×100

韓国・台湾が多くなりました。中国本土は今後益々多くなると考えられます。ただ地政学的なリスクがある
ことを考慮する必要があります。

表34 国籍別外国人宿泊 (単位:%)

年度	中国	韓国	台湾	香港	米国	タイ	豪州	その他
30 年	19.3	16.1	23.8	16.1	3.6	2.7	-	17.7
令和元年	26.4	12.9	25.7	12.7	3.4	3.2	-	14.9
2 年	35.9	2.6	16.1	10.3	4.2	6.3	1.9	22.6
3 年	11.1	5.9	2.3	1.8	6.3	1.6	0.6	70.3
4 年	2.5	11.5	14.2	11.8	5.9	7.2	2.6	44.3
5 年	7.8	27.3	23.5	11.6	6.1	4.1	2.5	17.2

(4) 外国人客受け入れの意向

- ・積極的に受け入れたい 64.2% +3.1 (P)
- ・高単価の外国人のみ受け入れたい 14.8% ▲7.4 (P)
- ・日本人観光客を優先する 21.0% +4.3 (P)
- ・外国人客は受け入れたくない 0.0% +0.0 (P)

表35 訪日外国人客の受入れ

(単位: %)

年度	積極的に 受け入れたい	高単価の外国人客 のみ受け入れたい	日本人客 を優先する	外国人客は受け 入れたくない
30 年	53.4	23.3	19.6	1.1
令和 元 年	51.9	20.0	25.9	1.5
2 年	55.0	21.7	23.3	0.0
3 年	51.0	22.5	25.0	0.0
4 年	61.1	22.2	16.7	0.0
5 年	64.2	14.8	21.0	0.0

表36 規模別外国人の受け入れ意向

(単位: %)

令和5年	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
積極的に 受け入れたい	64.2	69.2	69.3	55.7
高単価の外国人客 のみ受け入れたい	14.8	23.1	13.3	13.1
日本人客 を優先する	21.0	7.7	17.3	31.1
外国人客は受け 入れたくない	0.0	0.0	0.0	0.0

5. クレジットカード&電子決済<表 37>

(1) クレジットカード決済

クレジットカード決済が可能なのは、

大規模：100.0% 中規模：100.0% 小規模：100.0%

この集計自体意味が無くなってきました。

(2) ネット予約時の事前決済

ネット予約時の事前決済が可能なのは全体で92.6%となりました。

大規模：92.6% 中規模：97.3% 小規模：86.9%

(3) クレジットカード以外の電子決済

クレジットカード以外の電子決済が可能なのは全体で85.2%となりました。規模が小さくなるほど低くなるのが課題です。

大規模：96.3% 中規模：85.3% 小規模：80.0%

(4) 自社HPからの予約に占める事前決済の割合

自社HPからの予約に占める事前決済の割合は全体で23.4%となりました。

大規模：17.3% 中規模：23.1% 小規模：26.7%

表37 決済方法

(単位:%)

	クレジットカードによる決済が可能	ネット予約時の事前決済が可能	クレジットカード以外の事前決済が可能	自社HPからの予約に占める事前決済の割合
全 体	100.0	92.6	85.2	23.4
大規模	100.0	92.6	96.3	17.3
中規模	100.0	97.3	85.3	23.1
小規模	100.0	86.9	80.0	26.7
北海道	100.0	96.0	88.0	17.2
東北	100.0	75.0	91.7	15.1
関東	100.0	85.7	64.3	31.6
北陸信越	100.0	89.5	84.2	14.1
中部	100.0	100.0	100.0	17.1
関西	100.0	96.8	86.7	41.5
中国	100.0	93.8	81.3	21.3
四国	100.0	95.0	95.0	22.1
九州	100.0	93.8	75.0	18.1
黒字	100.0	92.3	84.5	23.9
赤字	100.0	94.7	89.5	22.7

むすび

今回の調査ではほとんどの旅館ホテルの決算期が新型コロナウイルス感染症の影響から脱却した決算書に基づくもので、B／S面でも収支面でも飛躍的に改善しました。

訪日客が順調に増加し、今年の訪日外国人受入数は過去最高になることが見込まれています。政府の目標である受入数 6000 万人も夢ではありません。

課題は山積していますが、観光立国の実現に向けて旅館ホテルが果たす役割は大きいと考えます。個々の旅館ホテル及び業界が一丸となって生産性の向上を図り、健全な経営体質を構築していくことが肝要です。

この報告書にはありませんが、Web 上の調査票に決算書の数値を入力して頂くと前年度の平均やあるべき指標が表示され、自社の立ち位置が分かります。

調査にご協力頂きました会員の皆さまに感謝申し上げます。

令和 7 年度調査（令和 7 年 8 月から調査実施予定）も今回同様インターネットによる調査に致します。

今後とも経営に役立つ指標も掲載しますのでご協力宜しくお願い申し上げます。



一般社団法人 **日本旅館協会**
JAPAN RYOKAN & HOTEL ASSOCIATION

令和6年12月27日
営業状況等統計調査(解説編)

発行 一般社団法人 日本旅館協会
〒102-0093
東京都千代田区平河町 2-5-5
全国旅館会館2階
TEL : 03-5215-7337 FAX : 03-5215-7338

本書を許可無く複製する事は固く禁じます。許諾については当協会までご照会下さい。